

第2回レポート課題主な見解

<1. 第2回目の授業内容について>

○パソコンの保有率は緩やかな低下傾向にあるが、一方でスマートフォンの保有率は右肩上がりである。モバイル端末全体で見れば 90%を超えた状態が続いており、若干の増加傾向にあるようにみえる。また、インターネットの人口普及率は年々増加傾向である。

このことから、情報化は進行状態にあるとわかった。

○総務省の令和3年版 情報通信白書によると、2010年ごろから、スマートフォンの普及率が爆発的に伸びていることが分かる。

それからおよそ10年でスマートフォンが世間に浸透し、スマートフォンを除く携帯端末の普及率が下がっていき、インターネット使用端末でスマートフォンが最上位になる結果となっている。

○スマートフォンの普及は携帯電話でパソコンで処理するようなマルチタスクなデータを扱えるようになった・・・

○図1-1から、2010年から2020年にかけてスマートフォンの保有率は急激に増加したことが分かる。また、同時期にFAXと携帯型音楽プレーヤーの保有率が徐々に減少していることが分かる。これらのことから、FAXや携帯型音楽プレーヤーの役割の大部分がスマートフォンに移ったと言える。

○昔は、固定電話でしか電話できなかったが、今はスマートフォンで電話ができるようになりスマートフォンの所持者が約9割の人が持っているので固定電話の必要性がなくなり所持者が減っています・・・

○(インターネットは、)・・・プライベートや仕事といった日常生活の中で便利に活用できることからこれほどまでに普及しているのであると感じています。利用者も増えれば新しいサービスにもつながってくるのでその連鎖がこの技術発展と情報通信機器の普及している理由と考えます。

<2. インターネットの歴史について>

○インターネットがなかった時代では分からないことがあれば本で調べたり、誰かに聞くという手段が多かったと思いますが、インターネットが作られたことにより、誰でも簡単

にわからないことを調べることができるし、仕事においても捗ると思うので、インターネットができたことによりとても便利な世の中になったと思います。

○自分は、インターネットは 1980 年あたりから構想が始まったのかと思っていましたが、実際には 1969 年と、思っていたよりかなり早い時期から構想が始まっていたとわかり驚きました。元は軍事目的での開発ということで、今ある家電製品などの便利なもののほとんどは、軍事利用を目的とした技術という話は本当なんだなと感じました。

○大石裕 1992「地域情報化」の出た 90 年代は日本においてもインターネットが一般に普及していく過程にあったので、第一回で登場した情報化が進展した社会の変容過程に着眼した定義が出てくるのは当然のことにように思える。

○インターネットというと当時の人はよくわからない人が多かったのかもしれませんが、研究や様々な使用者がいることで使用者も増えていき、その便利さを実感したことから急速にインターネットを通じて様々なサービスも発展していったのであると考えました。

○日本と米国のインターネットの歴史を見て思ったのは、今と同じで米国の後追いとして日本がインターネットを普及させて行ってるように見えた。

○インターネットの歴史を読み、一番驚いたのはインターネットの商業利用が制限されていたことである。

○商業利用が解禁され、多くの開発者が参入していくことによって技術が急速に進歩している。他社、他国との競争が発生することによって技術進歩スピードが上がるのではないかと思った。

○技術が発展、進化するために、専門家のみが使って開発するのではなく、様々な人に使ってもらい、使いやすくすることが大事だと思いました。

○1969 年の実験開始から 1993 年の商用利用開始までの間は、インターネットの普及はあまり感じられない。技術自体に価値があっても、利用者の制限の存在や、技術的な敷居の高さがある場合は、社会への大きな影響は抑えられるのだろう。

○日本のインターネットの起源は慶応義塾大学、東京大学、東京工業大学で構築された研究用ネットワークであることに関心を持ちました。

○インターネットの歴史を読んで、WWW の存在について興味を持った。すでに書かれているがインターネットの特性として簡単に世界中のデータベースを閲覧できる WWW ということが挙げれるが、普及が進んでいった 90 年代には閉ざされたネットワークであるパソコン通信なども存在していたわけで、インターネットが主流として現在にまで至った理由にはマルチメディア性とオープン性が長けている WWW という形態をインターネットが持っており他のネットワーク形態より優れていたからでもあると感じた。

○1984年に開始されたJUNETは村井純氏によって開発されましたが、彼の功績を調べてみるとJUNETの開発以外に、1992年にWWWを日本語化し、日本におけるWWWの普及に貢献し、遠隔医療や地震・災害情報の研究など、多くのプロジェクトに携わり、2005年には、モバイル端末向けの検索エンジン「goo」を開発しているため、まさに日本のインターネットの父と呼ばれている。・・・

○村井 純氏等のインターネットの歴史や基礎論については、以下の文献があります。

・脇 英世（2003年）『インターネットを創った人たち』青土社
<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784791760947>

・村井 純（2010年）『インターネット新世代』岩波新書
<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784004312277>

。村井 純（2014年）『インターネットの基礎』角川学芸出版
<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784046538819>

・IIJ「インターネットの歴史と発展」
https://www.iiij.ad.jp/cm/i_book/chapter2_1.html

<番外編>

○・・・現在ブームになっているA Iについても特別な知識がなくともブラウザ経由で簡単にアクセスが出来、誰でも簡単に最新のA Iを利用することが出来ます。このような不特定多数が簡単に触れられる環境がその分野の発展に貢献していくのではないかと考えます。また、このような発展にはそれまでになかった新しいセキュリティ問題もつきものになっていると考えます。A Iについても機密情報や個人情報を見られてしまう可能性がある問題になっていることもありその分野の発展とともにリテラシーとセキュリティの強化も求められると思いました。

○ICT 普及の原動力としての人間の欲望——利用者（楽をしたい、楽しみたい、認められたい・有名になりたい（承認欲求））、企業経営者（金を儲けたい、市場を支配したい）、国家指導者（人を監視・操作・支配したい）、技術者・研究者（新しいものを作りたい、新しい知識・技術を得たい）、名誉欲←——利用者の人権（プライバシー・自由・平等・生命財産の不可侵等）を守るために法律・条約による規制必要

※道路交通法を制定・取り締まり体制を作らずに、自動車を自由に運転させるのに等しい